

## 終刊にあたって

2001 年から毎年 1 号を刊行してまいりました『対人社会心理学研究』を、この第 20 号をもって終刊とすることになりました。

本誌の刊行は、2000 年 4 月に着任された大坊郁夫先生（名誉教授；現・北星学園大学学長）による、新たな研究室の立ち上げ、そして新たな世紀を期して、活発に研究情報を発信しよう、というアイデアから始まったものです。印刷冊子に加えて研究室 Web サイトで PDF を公開する電子刊行をしたのは、今ではどこの学術誌も当たり前に行っていることですが、当時としては大変先進的な取り組みでした。助手として在籍していた私は、投稿規程や執筆フォーマット作成、冊子/電子刊行までの手続きなど、あらゆるプロセスに携わることができ、このような新しい仕事に取り組めること、また自らの研究を世に出す場が与えられたことに、大きな喜びを感じたことをよく覚えています。

その後、編集委員長は釘原直樹先生（名誉教授；現・東筑紫短期大学教授）に引き継がれ、第 19 号と第 20 号は綿村英一郎准教授が務めました。第 19 号までの合計掲載論文数は 255 本（総説論文 11 本、原著論文 144 本、資料論文 82 本、その他 18 本）にのぼり、うち第 1 著者が研究室外の方によるものは 159 本に達しています。これは、本誌が単なる研究室の紀要という位置づけにとどまらず、広く学界に受け容れられたことの証左と言えるでしょう。これまでの編集委員長および研究室メンバー（歴代の助教や大学院生）の働きが、学界の活性化の一翼を担っていたとすれば、これほど喜ばしい話はありません。

ではなぜそんな『対人社会心理学研究』の刊行を取りやめるのか、と訝しむ方もあるかもしれませんが、端的に言えば、「学会/出版社刊行ではない雑誌を大学の 1 研究室が発行する」ことのコストとベネフィットを比較した場合、刊行開始時は後者が大きかったのが、現在では前者の方が大きくなった、と判断した」ことによります。現在では、査読つき学術誌とは異なる形で研究成果公開が可能な媒体は、非常に多彩になりました。研究者個人によって、無料で、恒常的にアクセス可能な（つまり DOI を付した）成果公開ができるサービス([ResearchGate](#) や [PsyArXiv](#))がその最たる例です。研究室/研究者にとって活発な研究情報の発信が重要であることは今も変わりありません。しかしそのための場として本誌のような媒体が果たす役割は既に終わった、と考えました。

最後になりましたが、これまで論文を投稿して下さった皆様、そして掲載された論文をお読み下さった読者の皆様に、心より感謝申し上げます。

2019 年 10 月

大阪大学大学院人間科学研究科  
社会心理学研究室 教授  
三浦麻子